

沖繩MICEナイト
主催：沖繩県、沖縄観光コンベンションビューロー



チームビルディング体験
 企画・運営：(株)DMC沖縄

沖縄の自然や文化を楽しみながらミッションをクリアする。今回のチームビルディングを企画した(株)DMC沖縄の徳田社長は、「リーダーを中心に新たなコミュニケーションを作り、一緒にミッションを行うことで、メンバー同士のコミュニケーションがとれる。水族館のコンテンツに目を留めてもらい、海洋博公園一帯のベニューとしての魅力を感じていただくこともめざしました」と語る。

海外招聘バイヤーの面々。右端はMPI Japan chapter 浅井名誉会長

展示会には、県内MICE関連企業・団体 約39社が出展。会場では、国内・海外招聘者（バイヤー）と県内セラー（出展社）との商談会が実施され、会議室A1・2では「沖縄ふれあい文化体験」と題した会場が設けられ、エイサーや三線、島ぞうり彫りなどの体験型MICEコンテンツが紹介された。

バイヤーは、国内チームと海外チームに分かれ、午前中には、海外バイヤーが1人当たりセラー5社と商

談会を行い、その際に国内バイヤーは、沖縄ふれあい文化体験に参加。午後には、国内バイヤーが1人当たりセラー7社と商談会を行い、海外バイヤーは、沖縄のホテルインスペクションを行った後、会場に戻り、沖縄ふれあい文化を体験することで、多くの参加者がより快適な環境で商談会ができるよう工夫された運営が印象的。

展示会に出展した県内MICEセラーは、各社の持つ魅力的なMICE

コンテンツをPRし、企画提案型のMICEプロモーションの展開を図った。海外バイヤーと県内セラー間の言葉の壁を心配したが、通訳を希望する海外バイヤー1人当たり1人の専門通訳スタッフが付いている。通訳スタッフの人数、約70人。さらに、会場には、3個所の商談ブースが設けられ、その中には、各出展社名が書かれたテーブルが用意され、去年に比べても、同時実施可能な商談件数は明らかに増えていた。

沖縄MICEコンテンツコンテスト2012

- 会議運営部門 表彰
- パーティ演出部門 表彰



株式会社 沖縄コングレ

〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地3-1-1日本生命那覇ビル
 TEL:098-869-4220 FAX:098-869-4252 <http://www.okinawa-congre.co.jp>
 ・コンベンション事業 ・コミュニケーション事業 ・スタッフサービス事業





① ウェルカムドリンク

@サンセットラウンジ(面積280㎡)

コンベンション前後や休憩時、沖縄の伝統工芸を取り入れたアジアリゾートのくつろぎを感じながらのひと時を過ごしたり、小規模なリゾートコンベンションに利用できる心地よいラウンジ。

沖縄MICEナイトがスタートする前、ザ・ブセナテラスが、ウェルカムドリンクとフィンガーフードを用意した。

② 立食スタイル

@サミットホール(面積441㎡)

世界中から取り寄せた建築素材の逸品に、自然素材を組み合わせ、国際交流の場に相応しい高品質な空間が演出できる。日本初のリゾート型サミットが開催された。マリオットリゾート&スパによる、クッキングパフォーマンスとオリジナルスイーツが提供され、沖縄産マグロ解体ショーは参加者に好評を博した。

③ 正餐スタイル

@カフェテラス(面積144㎡)

2000年サミットの際に世界各国の首脳がくつろいだ南国リゾートスタイルの宴会場。会議が開催されない日には、カフェテラスとして営業されている。昼間行われたチームビルディングで優勝したチームのメンバー40人は、落ち着いた雰囲気、ザ・ブセナテラス&スパが披露する正餐スタイルのディナーを体験した。

④ 着席ビュッフェスタイル

@オーシャンホール(面積323㎡)

光きらめくエメラルドグリーン的大海、沖縄の豊かな自然が身近に感じられる会場。スペース分割をはじめ、多様にアレンジできる空間機能を持ち、講演会、分科会、展示コーナーなどに利用できる。会場前方の舞台でアトラクションが披露される中、ゆがふいんおきなわが提案する、着席ビュッフェスタイルのディナーを体験した。

バイヤーに対する数々の配慮は、沖縄MICEを盛り上げ、成功させたという主催側の熱意と繋がっていると感じた。

今回の沖縄MICEプロジェクトで沖縄のMICEを体験できたことを嬉しく思っていると言った、シンガポールから参加している多国籍ファーストフード企業のMICE担当者のNさんは、主催側がイベントをプランニング・運営することが印象的だった。言葉の壁があるにも関わら

ず、参加者の立場を考え、さまざまなプログラムで英語の説明を用意してくれたことや素晴らしいおもてなし、フレンドリーな人びと、綺麗な島の自然環境に位置するユニークベニューを高く評価した。また、沖縄に対しては、「米軍基地があるという情報しかもっていなかったけれども、沖縄に対するさまざまな情報が得られて嬉しい。沖縄の文化が好きになった」と述べた。「今回は、成田空港を経由してきたけれども、飛行

時間が長すぎたため、台湾を経由して来た方が良かったことが分かった」ともコメントした。

南国の独特な自然環境と文化やフレンドリーな人びと、また日本でありながら、沖縄ならではのブランドとしての位置づけなどの資源を、政府の多角的で厚い支援を受け、開発・発展・アピールしている沖縄MICEには今後も注目していくとともに、大いに期待したい。

沖縄MICEコンテンツコンテスト2012

商談会が終わった後、展示会場の奥に用意されたステージでは「沖縄MICEコンテンツコンテスト表彰式」が、沖縄MICEコンテンツトレードショーのトリのプログラムとして開催された。

同コンテストは、優れたMICEコンテンツを選出・PRすることで、プロモーション展開と県内企業・団体のMICEコンテンツのレベルアップを図り、誘致・受入体制の強化に努めるもの。

沖縄の多くのMICE関係者が「会議運営部門」、「パーティ演出部門」、「アフターMICE部門」、「メモリアルグッズ部門」の4つの部門に応募。厳正なる審査の結果、

(株)沖縄コングレが会議運営部門とパーティ演出部門の2部門を受賞。(社)沖縄市観光協会がアフターMICE部門を、首里琉染がメモリアルグッズ部門を、それぞれ受賞した。

(財)沖縄観光コンベンションビューローによると、今回のコンテストでは、沖縄県、沖縄観光コンベンションビューロー、JTB協定旅館ホテル連盟沖縄支部、東武トラベルから審査委員が選出され、①地元沖縄のコンテンツをもとに、各社のもつ独自の素材や強みを生かした提案がされていること、②既存コンテンツを組み合わせ、新しいMICEコンテンツに

仕上げていること、③斬新性・オリジナリティについても、地域資源や伝統・文化を活かした提案がなされていること、の4点を主な評価ポイントとして、多角的かつ公平に審査が行われた。

会議運営部門とパーティ演出部門の2部門を受賞した沖縄コングレは、沖縄独自の文化を、学会などの専門分野の会議運営にアトラクションとして取り入れ、これを参加者が五感で感じてもらうことを参加者サービスの一助とこだわっており、パーティ演出においても、沖縄の自然や文化などの素材を生かした演出を行っていることを、表彰コメントの中で披露した。